

中国にならった国家づくり

節まとめの問い 古代の日本では、どのようにして国がつくられていったのだろうか。

※デジタル教科書オリジナルの問いです

評価規準の具体例

知識・技能	・律令国家の確立に至るまでの過程を基に、大陸の文物や制度を積極的に取り入れながら国家のしくみが整えられ、その後、天皇や貴族による政治が展開したことを理解しているとともに、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を効果的に調べ、まとめている。 ・仏教の伝来とその影響などを基に、国際的な要素をもった文化が栄えたことを理解しているとともに、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を効果的に調べ、まとめている。
思考・判断・表現	・東アジアとの接触や交流に伴う日本の政治や文化の変化に着目して、東アジアの動きが政治や文化に与えた影響を、事象を相互に関連づけるなどして、多面的・多角的に考察し、表現している。
主体的に学習に取り組む態度	・律令国家の形成や古代の文化と東アジアとのかわりについて、学習課題や章の問いと関連づけながら「なぜ、日本の古代国家は、中国にならって国づくりを行ったのだろうか」という節の問いを主体的に追究しようとしている。

指導計画例

項目	本時の目標	端末活用	作成したいカード
0. タイムトラベル③ 奈良時代を眺めてみよう	(1) 縄文時代や弥生時代の集落と、奈良時代の国分寺建設の様子を描いた想像図を比べて、どのような点に変化し、どのような共通点があるのかを読み取り、想像図への疑問を追究すべき課題（生徒自身の「単元を貫く問い」として設定できる。	思考ツールの提示	
1. ヤマト王権と仏教伝来	(1) 蘇我氏や聖徳太子の改革の特色とそのねらいを理解し、仏教を重視した理由を考察できる。 (2) 蘇我氏や聖徳太子が改革を行った理由を中国との関係から考察し、説明できる。	カード作成 思考ツールで整理	隋 蘇我氏 仏教 聖徳太子 冠位十二階 十七条の憲法 遣隋使 法隆寺 飛鳥文化
2. 揺れ動くアジアと倭国	(1) 大宝律令の制定により、中央集権国家のしくみが作られたことを理解できる。 (2) 白村江の戦いの敗北後、天皇を中心とする国づくりが行われた理由を考察し、説明できる。	カード作成 思考ツールで整理	唐 律令 中大兄皇子 中臣鎌足 白村江の戦い 戸籍 天武天皇 遣唐使 律令国家 大宝律令 朝廷
3. 律令国家での暮らし	(1) 班田収授法のしくみを理解し、律令体制の下で農民は重い負担を強いられていたことを理解できる。 (2) 墾田永年私財法が出された理由と、社会に与えた影響を考察し、説明できる。	カード作成 思考ツールで整理	平城京 貴族 班田収授法 口分田 租・調・庸 墾田永年私財法
4. 大陸の影響を受けた天平文化	(1) 奈良時代には、大陸の影響を受けた国際的な文化が栄えたことを理解できる。 (2) 大仏造立など、仏教に関わる大規模な事業が行われた理由を考察し、説明できる。	カード作成 思考ツールで整理	聖武天皇 天平文化 東大寺 国分寺 国分尼寺 鑑真 古事記 日本書紀 万葉集
節のまとめ		まとめ・発表・提出	

節まとめのプロセス

- はじめに、節まとめの問いに対して自分なりの答えを**思考ツール**でまとめていくことを示し、学習の見通しをもたせる。
- 毎時間の整理で、節まとめの問いに関わる必要なカードを作成させ、節まとめの問いと毎時間のつながりを確認させる。
- 毎時間の整理を基に、「まとめも」の機能を活用し、カードに関する補足説明をしたり、カードの色を変えて分類したり、カードどうしを矢印でつなげて関連性を考えたりしながら、節まとめの問いに対して構造化させて自分の答えをまとめていく。
※オレンジ色の作成したいカードについては、節のまとめでは必須語句となるため、作成していない生徒がいれば作成を促す。
- まとめた思考ツールを基に、グループまたは学級内で交流させる。

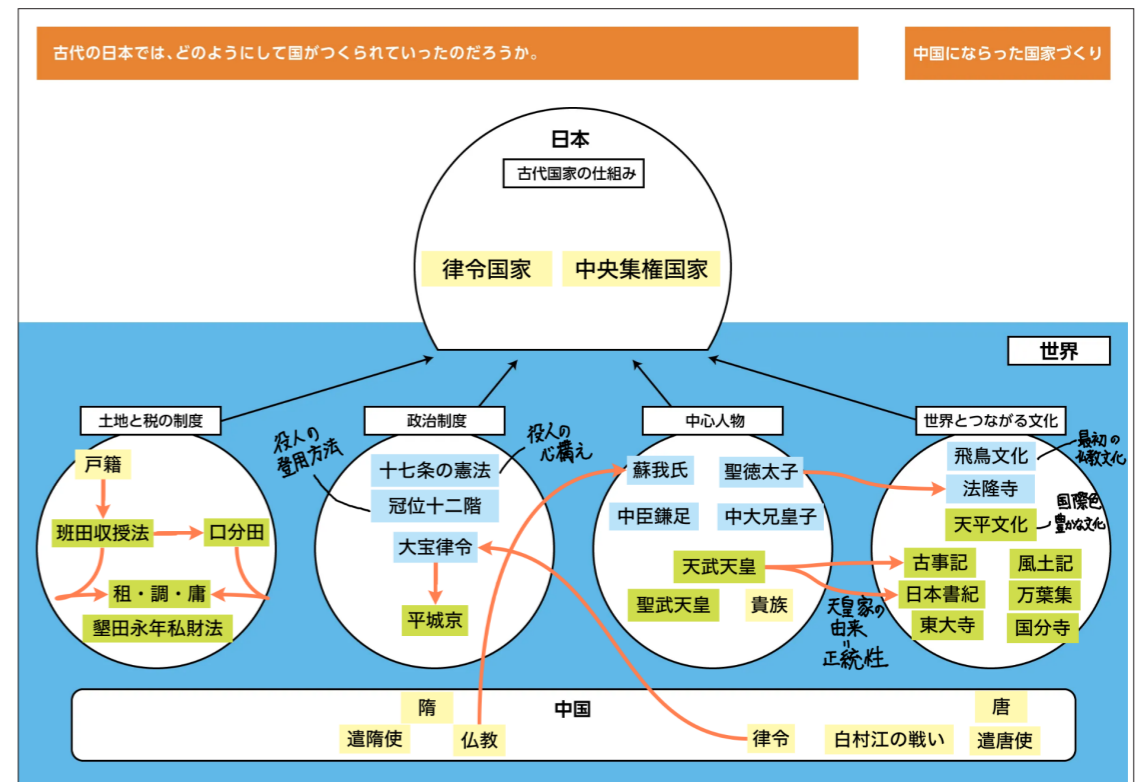
歴史的な見方・考え方の着眼点

【推移】展開 変化 継続 【時代・年代】 時期 年代
【相互の関連】背景 原因 結果 影響 【比較】 類似 差異 特色

使用した思考ツールと選定理由と観点

- クラゲに見立てて、「胴体」の部分にテーマや主張を書き入れて、「足」の部分にその根拠や理由を書き出す方法である「**クラゲチャート**」を使用した。
- 本節は国家の基盤となる制度や仕組みが、中国の影響を受けながら構築された時期である。具体的には、天皇中心の中央集権的な国づくりに必要となる制度や決まり、法や税制などが中国などの影響を受けながら、わが国で最初に構築されていった。本節では、「**クラゲチャート**」を用いることで、古代国家の具体的な制度や仕組みの関係や中国の影響などの相互の関係という見方を可視化し、「古代国家の成立」という概念的理解を促すことを目的とする。そのため、観点には以上の本節のねらいと教科書の記述を参考にし、おもに「**土地と税の制度**」「**政治制度**」「**中心人物**」「**文化**」を設定した。
- また、本節で学んだ時代の特色を捉える視点を他の時代に応用して、自ら設定した視点で時代の特色を整理できるようになる。具体的には、政治の仕組みに着目して、地方の権限が強い時代との対比が分かるようになったり、明治維新政府の中央集権的な仕組みで応用できたりできることである。ただし、ここでは、中学校一年生の第2章での学習の段階という事情を考慮して、ここではクラゲの足の観点は予め設定している。

思考ツールを使った解答例



※カードの配色は、飛鳥時代の出来事を「青」、奈良時代の出来事を「黄緑」、その他を「黄」とした。

古代の日本は、**天皇**や**貴族**が政治を行い、**中国の影響**を受けながら、天皇中心の**中央集権的な国**としてまとまるようになった。そのために必要な政治や土地、税の仕組みとして**律令**や**班田収授法**が整えられた。古代国家がつくられた奈良時代、**平城京**では政治文化の中心として国際色豊かな**天平文化**が栄えた。

評価のポイント

- 我が国の古代の仕組みや特色を、「中心人物」「政治制度」「土地制度・税制」「文化」の観点で整理し、「背景」や「影響」、「展開」の見方・考え方を働かせながら説明している。
 - 古代国家の成立を、クラゲチャートを参考に、中国の影響の視点から説明している。
 - 古代国家の政治の仕組みについての具体的な事実を正しく述べている。
- これらの条件をすべて満たしていれば、A評価とする。

章まとめの問い 全国を統一する政権の誕生によって、社会はどのように変化したのだろうか。「マイ年表」でまとめよう。

※デジタル教科書オリジナルの問いです

マイ年表の意図・メリット

章（大単元）をつらぬく学習問題を設定し、その答えをまとめる学習活動は、**学習指導要領**において「**我が国の歴史の大きな流れ**」を「**各時代の特色を踏まえて理解する**」という**歴史的分野の学習の基本的なねらい**を踏まえる意味でも、本時の学習の目的を明確にするためにも、各章の学習内容の定着を図るためにも、ますます重要な学習活動になっている。その章（大単元）をつらぬく学習問題の答えのまとめ方の1つとして、**マイ年表の作成は効果的**であると考えられる。

●年表は最良の思考ツール

近年、学習内容を視覚化できる思考ツールを導入した授業がさかんであるが、年表は、歴史的分野の学習における**最良の思考ツール**ではないだろうか。なぜなら、年表を作成しこれを活用することで、社会的事象の**歴史的な見方・考え方**を働かせることができるためである。例えば、歴史的な出来事を年代に位置付けると「いつどこでどのようなことが起きたか」をとらえることができる。その出来事を線で結び付けてコメントを書き加えれば「なぜ起きたか」「どのような影響を及ぼしたか」も視覚化できる。章ごとに作成した年表を比較することで「前の時代とどのように変わったか」「どのような時代だったか」を考察する資料にもなる。古代から現代までの年表がそろって「それはどのような意義があるのか」「歴史を振り返り、よりよい未来の創造のために、どのようなことが必要とされるのか」といった問いの答えを構想することもできるようになるだろう。章（大単元）をつらぬく学習問題の答えを文章のみでまとめる方法もあるが、**生成AI**が普及している現在においては公正な評価の面で課題がある点にも留意したい。

●ICT機器の普及で、試行錯誤しながら年表を作成

一人一台のタブレットPCの配付や教育アプリの導入など、**授業のICT化**が進むことで、マイ年表によるまとめは**だれでも容易にできる学習活動**になった。方眼紙等に鉛筆や色ペンで年表を作成する場合よりも、生徒によるデザインの巧拙の差が表れにくいため、生徒は学習活動のねらいに焦点を当てて作成しやすく、授業者も評価しやすい。

なにより、紙とペンで作成することと比較してのもっとも大きなメリットは、マイ年表は修正や追記が容易であるため、あってもないこうでもないと、試行錯誤しながら年表を作成できることである。紙とペンでは、修正や追記が困難であることで完成形のイメージが最初から必要となり、社会科に苦手意識のある生徒にとっては作り始めるまでのハードルが高くなってしまふ。このメリットを生かせば、毎時の授業の予習や復習の中で、少しずつ作成していくことも可能になる。例えば、日々の授業の予習や復習として「いつどこでどのようなことが起きたか」を年表に位置付けさせ、節（中単元）が終わるごとに「なぜ起きたか」「どのような影響を及ぼしたか」を表現させておけば、章（大単元）が終わってからのマイ年表づくりへの生徒の負担も分散でき、かつ家庭学習の習慣の定着の一助にもなるものと考えられる。これを評価計画に組み込むことで、**主体的に学習に取り組む態度の評価材料**とすることも可能になるだろう。

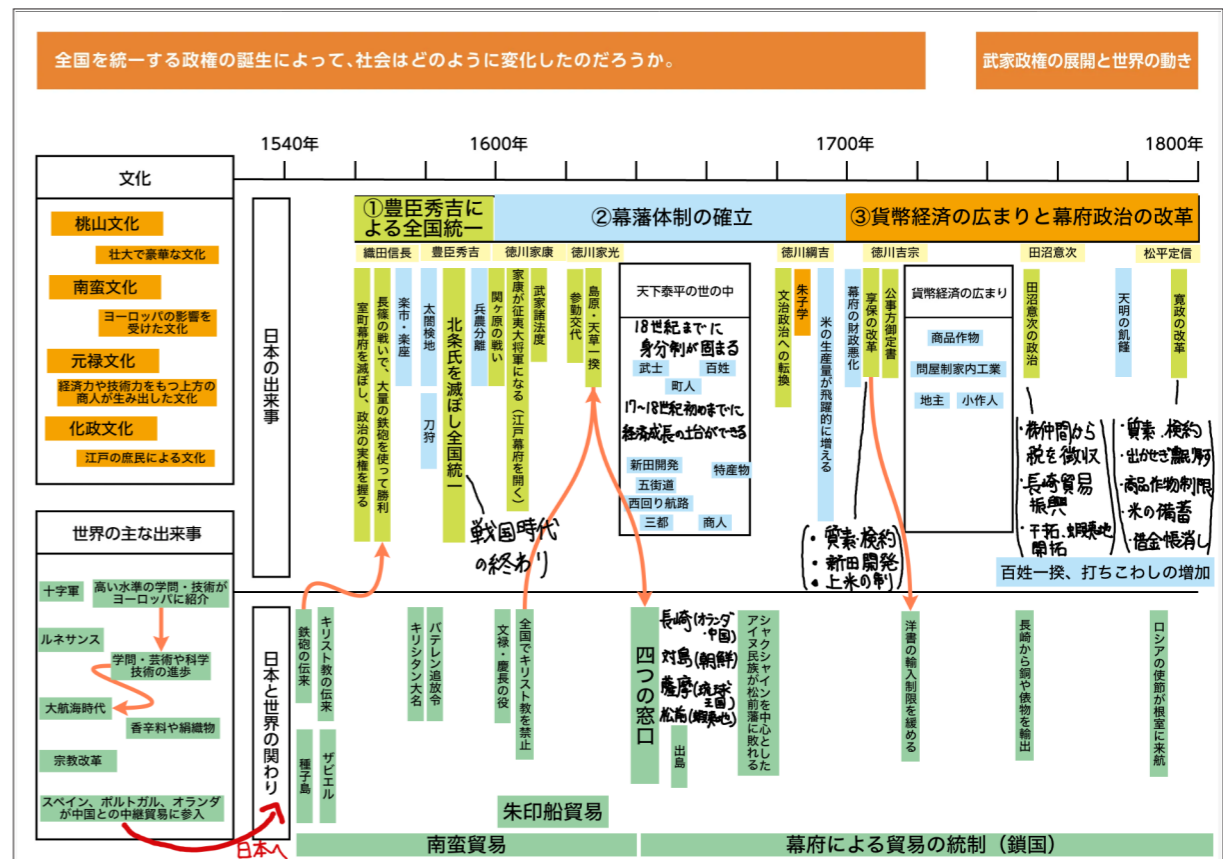
章まとめのプロセス

1. 「いつどこでどのようなことが起きたか」を位置付けることから始めさせる。学習問題の答えに関係していそうな出来事を教科書から抽出し、カードを作成させる。
2. 次に関連している出来事（カード）を矢印で結んだり、共通点のある出来事（カード）を線で囲んだりしながら「なぜ起きたか」「どのような影響を及ぼしたか」を表現させる。
3. 章（大単元）をつらぬく学習問題の答えが見え始めたら、修正・追記をしながら、視点や色づかいや図版資料の配置なども工夫して、問いに正対したわかりやすい年表にまとめ上げさせる。

歴史的な見方・考え方の着眼点

【推移】 展開 **変化** 継続 【時代・年代】 時期 **年代**
 【相互の関連】 背景 原因 結果 **影響** 【比較】 類似 差異 **特色**

マイ年表を使った解答例



※カードの配色は、人物を「黄」、政治を「黄緑」、経済を「青」、文化を「オレンジ」、世界の出来事や世界とのかかわりを「緑」とした。

全国統一が果たされたことによる変化は、大きく三つあります。一つ目は、**豊臣秀吉**の政策によって身分制に基づく社会の土台がつけられたことです。二つ目は、**幕藩体制の成立**によって社会が安定したことです。三つ目は、**貨幣経済の広まり**や**生産力が向上して経済が発展**した一方で、新たな課題が生じ、**幕府政治の改革**がなされたことです。また、さかんだった外交・貿易が、**キリスト教**を脅威に感じた江戸幕府によって**統制**されるようにもなりました。つまり近世という時代の特色は、日本全体を一つの強い権力が支配する仕組みが確立され、外国からの影響をコントロールしていたことで、安定した社会が成り立った時代であるということです。

章の問いを考察する観点と留意点

- この学習問題には、三つの社会的事象の歴史的な見方・考え方が働く問いが内包されている。それは「どのようにして全国を統一した政権は誕生したのだろうか」「全国を統一した政権は、どのような政策を進めたのだろうか」「幕藩体制の確立によって社会はどのように変化した、なぜ改革が行われたのだろうか」というものである。またこれらの問いについて考える上で、世界とのかかわりに着目することも必要である。この学習問題は、近世という時代の特色をとらえることに直結している問いになってもある。
- 今回は、この三つの問いに対応した年表の視点（「① **豊臣秀吉による全国統一**」「② **幕藩体制の確立と経済成長**」「③ **経済成長と幕府政治の改革**」）を設定したが、ここには生徒にそれぞれの時代の特色を示す言葉を入れてもらいたい。また、これらの視点を「**日本の出来事**」とすることで、変化に着目した歴史的な推移を視覚的にとらえることが容易になる。また、マイ年表の三分の一程度を「**日本と世界との関わり**」として分けることで、近世の日本社会の変化における外国からの影響をとらえやすくなる。

評価のポイント

- 学習問題の答えについて、正確な知識に基づきながら、適切な年表の視点を設定し、教科書等の資料を活用しながら、わかりやすいデザインで年表を作成している。
 - 学習問題の答えについて、「いつどこでどのようなことが起きたか」だけでなく、「なぜ起きたか」「どのような影響を及ぼしたか」「前の時代とどのように変わったか」「どのような時代だったか」「それはどのような意義があるのか」などを年表で表現している。
- これらの条件をすべて満たしていればA評価とする。